

西南学院小学校 学校長メッセージ

「学校通信 Wings 2020年10月号」

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」

ヨハネによる福音書 13章 34節

朝夕ずいぶん涼しくなり、ようやく過ごしやすい季節となりました。9月の4連休は久しぶりに各地の観光地が賑わったようですが、春以来自宅で過ごす時間が多くなりライフスタイルにも様々な変化が起きました。その変化は一過性のものでなくコロナ禍が終息しても元のように戻らないだろうとの報道も見られます。教育に関することでは、今回のことをきっかけにオンライン化の動きが加速することは間違いないのではないかと考えています。本校でも対応を進めていますが、本通信の8月号にも書いたように「光あるところには影あり」の言葉を忘れないようにしなければと思います。

秋は1年でも最も過ごしやすい季節であることもあって、〇〇の秋と昔から言われてきましたが、今切に子どもたちに願うのは「読書の秋」を充実させてほしいということです。私が高校生の頃、旺文社の参考書のカバーの裏に「一冊の参考書の選択があなたの人生を変えるかもしれない」（細部は少しちがうかもしれませんが）という言葉が印刷されていました。そのときは、なるほどとは思ったものの、実感することもなくいつのまにか忘れてしまっていました。（少し脱線しますが、私が高校時代を過ごしたのは、それまで英単語と言えば「赤尾の豆単」だったところに森一郎氏の「試験にでる英単語」が出版され、瞬く間に広がっていったころです。どちらも今も出版されているようですが、中身も変わったのでしょうか。）その言葉を再び思い出したのは、社会人になってから、「一冊の本があなたの人生を変えるかもしれない」という言葉に出あったときでした。実社会に出てからは、娯楽としての読書もありましたが、試練の中で出あった本に励まされたり指針を示されたりするなかで、「人生が変わる」とまではいかなくても、生き方に影響を与えるということを実感していたと思います。だからこそ、この言葉がずっと胸に入り、参考書の言葉まで思い出したのではないかと思います。「よき本との出あい、よき友との出あい」という言葉がありますが、読書は人生のよき友であるとも言えるのかもしれませんが、本を読まなくても生きていけるとは思いますが、よき友と歩むことできっと人生が豊かになることでしょう。

子どもにとっての読書は、語彙や知識を習得したり、言語操作能力を育てたりうえでとても大切な役割を果たすばかりでなく、登場人物に同化することで、たとえて言えば「いくつもの人生を生きる」ことができます。そうした経験がものの考え方や感じ方の形成に関わっていくのではないかと思います。間接的ではあってもそうした経験が豊富であればあるほど、内面的な成長も豊かなものになっていくのではないのでしょうか。読書離れによって、子どもたちの内面的な成長が阻害されてしまうことのないよう願わずにはいられません。

初めにも書いたように、コロナ禍でライフスタイルが変わり、子どもたちの生活にもますます映像文化が入り込んできています。ゲーム業界もますます活況を呈しているとのこと。もちろん、それらの全てが問題ということではありませんし、映像でしか味わえない良質な文化もあります。ただ、玉石混濁の文化が氾濫するなかでは、子どもたちにとってできるだけ好ましい文化環境で育つように、まずは私たち大人が意識していくことが必要ではないかと思います。どうか子どもたちが読書により親しむことができるようご家庭でもよろしく願います。

文責 宮崎 隆一